

鶴見良次教授 略歴・業績

鶴 見 良 次

略歴

鶴見良次（つるみ りょうじ）1955 年 3 月 13 日東京都生まれ

最終学歴

1984 年 4 月 筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科入学
1989 年 3 月 筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科単位取得満期
退学

取得学位

1986 年 3 月 修士（文学）（筑波大学）
2001 年 11 月 博士（文学）（筑波大学）

職歴

1987 年 4 月－89 年 3 月 日本学術振興会特別研究員（DC）
1987 年 9 月－88 年 9 月 ケンブリッジ大学ホムトン・カレッジ客員研
究員（Visiting Scholar）
1989 年 4 月－92 年 3 月 成城短期大学専任講師
1990 年 4 月－96 年 3 月 明治学院大学文学部非常勤講師
1990 年 4 月－91 年 3 月 玉川大学文学部非常勤講師
1992 年 4 月－94 年 3 月 成城大学法学部兼務
1992 年 4 月－94 年 3 月 成城短期大学助教授
1994 年 4 月－2002 年 3 月 成城大学短期大学部助教授（名称変更による）

1998 年 3 月－99 年 3 月	ケンブリッジ大学ダーウィン・カレッジ客員 メンバー (Visiting Member) ケンブリッジ大学英文学科客員研究員 (Visiting Scholar)
2002 年 4 月－04 年 3 月	成城大学短期大学部教授
2002 年 4 月－03 年 3 月	成城大学文芸学部兼務
2004 年 4 月－25 年 3 月	成城大学文芸学部教授 成城大学大学院文学研究科教授兼任

所属学会

1986 年 4 月－	大塚英文学会
1987 年 4 月－	英語圏児童文学会 (旧日本イギリス児童文学会)
1988 年 4 月－	日本英文学会
1998 年 10 月－	The Textbook Colloquium (国外、英国教科書学会、現在 休会中)
2020 年 9 月－	近代英語協会

研究業績

著書

単著

『マザー・グースとイギリス近代』(岩波書店, 2005 年。電子書籍, 2023 年)
『イギリス近代の英語教科書』(開拓社, 2021 年)
『イギリスの忘れられた子供の本』(朝日出版社, 2023 年)
『ラテン語教育から英語教育へ』(仮題, 近刊)

共著

『聖なるものと想像力』下巻(「革命論争と妖精物語論争——トリマー夫人
と勃興期のイギリス児童文学」の章, 山形和美編, 彩流社, 1994 年)

- 『文学の文化研究』（「教訓主義の衰退——アイザック・ウォッツの『聖なる歌』とそのトラクト」の章，川口喬一編，研究社出版，1995年）
- 『文化のヘテロロジー』（「長靴をはいた猫の爪について——ペロー童話集の初期英訳版をめぐって」の章，赤祖父哲二監修，リーベル出版，1995年）
- 『文学の境界線』（『現代批評のプラクティス』，第4巻）（「学者動物について——フランス革命論争とバーソロミュー・フェア」の章，富山太佳夫編，研究社出版，1996年）
- 『文学のグローバル研究』（「イギリスにおける英文学教育の曙と学校用アンソロジー」の章，荒木正純責任編集，弘学社，2014年）

文学辞典（項目執筆）

- 『一冊で不朽の名作 100 冊を読む——日本と世界の代表的児童文学』（定松正監修，友人社，1990年）
- 『世界・日本 児童文学登場人物辞典』（定松正編，玉川大学出版部，1990年）
- The Cambridge Guide to Children's Books in English*（国外，Victor Watson (ed.)，Cambridge University Press, 2001）

論文等

学位論文

- ‘Charles Dickens and the Victorian Acceptance of Fairy Tales’（筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科修士論文，1986年3月）
- 「フランス革命論争と妖精物語論争——社会改革期のイギリスにおける子供の読書」（筑波大学博士（文学）学位請求論文，2001年11月）

学術論文

- 「妖精物語の残酷性」（*Otsuka Review*，第22号，1986年8月，51–58頁）
- 「擬人的動物の童謡と童話」（*Otsuka Review*，第23号，1987年8月，58–

67 頁)

「魔女と女教師——ジョン・ニューベリー『靴ふたつさんの物語』研究」
(成城短期大学『紀要』第 21 号, 1990 年 3 月, 41-56 頁)

‘The Development of Mother Goose in Britain in the Nineteenth Century’ (国外, *Folklore*, Vol. 101: i (1990) 28-35)

「鶯鳥お婆さんとその鶯鳥について——イギリス伝承童謡とパントマイム」
(『英語青年』第 136 巻, 第 9 号, 1990 年 12 月, 2-6 頁)

「墮落しかつ罪のない子供たち——チャールズ・ディケンズとヴィクトリア朝の児童像再考」(*Otsuka Review*, 第 27 号, 1991 年 3 月, 37-46 頁)

「砂糖はどのように作られるのか——イギリスの植民地産商品の不買運動と慈善活動家の著作」(成城大学短期大学部『紀要』第 29 号, 1998 年 3 月, 21-42 頁)

「慈善と冒険——教訓主義児童文芸における大英帝国の辺境」(成城大学短期大学部『紀要』第 31 号, 1999 年 12 月, 23-36 頁)

‘Between Hymnbook and Textbook: Elizabeth Hill’s Anthologies of Devotional and Moral Verse for Late Charity Schools’ (国外, *Paradigm*, Vol. 2, Issue 1 (2000) 24-29)

「動物大道芸・戯れ唄・民衆政治——『ハバードお婆さんとその犬』をめぐって」(成城大学短期大学部『紀要』第 32 号, 2000 年 7 月, 25-44 頁)

「初期チャリティー・スクールのリテラリー・カリキュラム——18 世紀イギリスにおける ‘English’ という教科の成立」(成城大学短期大学部『紀要』第 34 号, 2002 年 3 月, 1-14 頁)

「後期チャリティー・スクールの英語教材としての墓碑詩——18 世紀イギリスの英語教育についての一研究」(成城大学短期大学部『紀要』第 35 号, 2003 年 3 月, 47-60 頁)

「ヴァナキュラーな古典の編纂——18 世紀イギリスにおける英語教材としてのアンソロジーの隆盛」(成城大学短期大学部『紀要』第 36 号, 2004 年 3 月, 1-16 頁)

「ラテン語文法訳読と母語教育——ジョン・ブリンスリー『ルーデウス・

- リテラリウス』と 17 世紀イギリスの英語教育」(『成城文藝』第 200 号, 2007 年 9 月, (65) – (79) 頁)
- 「『教理問答付き ABC』の伝統——イギリスのチャリティー・スクールにおける英語綴字教育」(『成城イングリッシュモノグラフ』第 40 号, 2008 年 3 月, 265 – 87 頁)
- 「ABC と聖書——17 世紀後半のイギリスにおけるアルファベット = 綴字教育とその教材」(『成城文藝』第 206 号, 2009 年 3 月 (1) – (10) 頁)
- 「『新約聖書が完璧に読めること』——18 世紀イギリスにおける初等リーディング教育の達成目標」(『成城文藝』第 207 号, 2009 年 6 月, (22) – (43) 頁)
- 「誤文訂正練習法について——アン・フィシャー『新英文法』と 18 世紀イギリスの初等英文法教育」(『成城イングリッシュモノグラフ』第 42 号, 2010 年 2 月, 383 – 39 頁)
- 「最下級の子供たちのための教科書」——ウィリアム・ラウトン『実用英文法』と 18 世紀中葉のイギリスの初等英文法教育」(『成城文藝』第 214 号, 2011 年 3 月, (1) – (21) 頁)
- 「1 音節でも 9 文字の単語は最後に学ぶ——トマス・克蘭プ『正書法の解剖』と 18 世紀初頭のイギリスにおけるスペリング教育」(『成城イングリッシュモノグラフ』第 43 号, 2012 年 3 月, 507 – 26 頁)
- 「イギリス慈善学校のリテラリー・カリキュラム——ジェイムズ・トールボットの教師用手引書『クリスチャン教師』(1707)」(『社会イノベーション研究』第 8 巻, 第 2 号, 2013 年 3 月, 17 – 36 頁)
- 「『慈善学校運動』とキリスト教知識普及協会——M・G・ジョーンズ『慈善学校運動』(1938) 以後の研究をふまえて」(『成城文藝』第 240 号, 2017 年 6 月, (15) – (24) 頁)
- 「ピューリタンの公教育構想と 18 世紀の慈善学校」(『社会イノベーション研究』第 14 巻, 第 1 号, 2019 年 3 月, 1 – 11 頁)
- 「2, 3 歳児から始める——バーバールド夫人とトリマー夫人の読み書き教育」(『社会イノベーション研究』第 18 巻, 第 1 号, 2022 年 10 月, 29 – 35 頁)

「18 世紀綴字教科書の完成形——セアラ・トリマー『慈善学校スプリング・ブック』第 1 部, 第 2 部 (1792)」(『成城イングリッシュ モノグラフ』第 47 号, 2025 年 3 月, 13-34 頁)

論説・書評等 (主なもの)

「ジョージ・クルックシャンクの絵本」(『日本イギリス児童文学学会会報』1987 年春季号, 1987 年 5 月, 9-10 頁)

「ロジャー・ランズリン・グリーン追悼」(『日本イギリス児童文学学会会報』昭和 63 年春季号, 1988 年 5 月, 4-6 頁)

「学校用の家具について——イギリスの例」(『成城教育』第 78 号, 1992 年 12 月, 60-61 頁)

「飯田正美著『闇のヒロインたち——イギリスの昔話と伝説』」(書評, 『英語青年』第 139 巻, 第 9 号, 1993 年 12 月, 37-38 頁)

「家庭での礼儀作法の歴史について——イギリス近代の例」(『成城教育』第 86 号, 1994 年 12 月, 44-48 頁)

「クエーカー・奴隷制廃止運動・児童書」(『日本イギリス児童文学学会会報』2000 年秋季号, 2000 年 10 月, 5-6 頁)

「谷本誠剛先生とジョウゼフ・ジェイコブズ」(『追想 谷本誠剛』, レターボックス社, 2007 年, 197-99 頁)

「クウィラー・クーチの子供の聖書」(『日本イギリス児童文学学会会報』2009 年秋季号, 2009 年 10 月, 1-2 頁)

「昔のイギリスの子供たちと」(『sful 成城だより』第 19 号, 成城学園 企画広報部, 2024 年 12 月, 14 頁)

受賞

2006 年 日本児童文学学会特別賞

組織運営上の業績

学会に関わるもの

日本イギリス児童文学会，編集委員，1999 年－2001 年

成城学園，成城大学，成城大学大学院に関わる主なもの

成城学園教育研究所所員，1993 年－1995 年

短期大学部 教養科英米文化コース主任，1996 年－1998 年

短期大学部『紀要』成城学園創立八〇周年記念号編集者，1997 年－1998 年

短期大学部 新学部構想委員会委員，1999 年－2003 年

短期大学部 専攻科主任，2000 年－2001 年

大学入試センター試験実施委員会委員，2001 年－2003 年

社会イノベーション学部（仮称）設置準備室室員（英語カリキュラム責任者），2002 年－2004 年

社会イノベーション学部（仮称）設置準備委員会委員，2003 年－2004 年

大学 入試管理委員会委員，2003 年－2004 年

大学院文学研究科 英文学専攻主任，2005 年－2006 年

文芸学部 英文学科主任，2006 年－2008 年

大学 入試管理委員会委員（外国語科考査主任），2006 年－2008 年

成城学園教育研究所所員，2006 年－2008 年

成城学園九〇年史編集委員，2007 年－2008 年

大学院文学研究科 英文学専攻主任，2010 年－2012 年

文芸学部 人事委員会委員長，2012 年－2013 年

大学 国際センター委員会委員 2015 年－2017 年

文芸学部 人事委員会委員，2017 年－2019 年

大学院文学研究科 人事委員会委員，2017 年－2019 年

大学 学長候補者選挙管理委員会副委員長，2018 年－2019 年

大学評議会評議員，2018 年－2020 年

文芸学部 人事手続検討小委員会委員長，2019 年－2020 年

文芸学部 人事委員会委員，2022 年－2023 年

大学評議会評議員，2022 年－2024 年

大学 国際センター委員会委員 2023 年－2024 年

大学院文学研究科 英文学専攻主任，2024 年－2025 年

担当授業科目（本務校）

短期大学・短期大学部

教養科 「英語」「英文学演習」「Essay Writing」「イギリス文化」「英語圏文化特殊講義」「ゼミナール」「英米文化講座」（分担）

専攻科 「特殊講座」「ゼミナール」

文芸学部

「英語」「英語文化論基礎演習」「英語文化論演習」「英語文化論特殊講義」「英文学ゼミナール」「英語文化基礎演習」「英語文化演習」「WRD」「SEE」「英語文化基礎ゼミナール」「英語文化アカデミック・ベシックス」「英語文化ゼミナール」

大学院文学研究科

「英文学研究」「英文学特殊研究」「英文学研究指導」「英文学特殊研究指導」「英語文化研究」「英語文化特殊研究」「英語文化研究指導」「英語文化特殊研究指導」